

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援事業所 p o n o p o n o	公表日	令和 7 年 4 月 30 日
------	---------------------------	-----	-----------------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		訓練指導室は、5 1．9 mを確保し、うち2部屋の完全個室を設置している。設置基準である児童一人当たり3 m以上を確保し、個別指導及び小集団活動が可能なスペースがある。	今後も unnecessaryなものを訓練室に置かないよう、整理整頓を継続していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		基準人員（児童発達支援管理責任者1名、児童指導員2名）に加え、公認心理士1名、保育士1名が常勤として勤務している。また、作業療法士も月に1～2回勤務している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		靴箱に靴マークと色、部屋やトイレのマークとそのカード等を設置しわかりやすいよう工夫している。極力、子どもたちに必要のない情報は入れないよう、装飾や掲示は、玄関のスペースのみに留めている。トイレやゲートの段差にはスロープを付けている。	通所されるお子さまの特性に合わせて、更に工夫する点があれば迅速に対応していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		トイレは使用した都度清掃し、毎朝、全室の清掃と消毒を実施している。運動活動するスペースには、何も置かず、壁や柱の角にはクッションを設置している。	定期的な安全点検を実施し、改善すべきところは迅速に対応する。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		常に、一人一部屋の利用を確保している。小集団活動中も必要に応じて、個室に移動することが可能。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	1	業務目標と改善点、今後の方針について職員ミーティング等で確認しているが、PDCAサイクルに則って、各業務担当に作成は指示していない。	業務分担ごとのPDCAレポートの作成を検討する。年度初めの目標設定、年度途中、年度末の進行状況や振り返りを継続していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			開業初年度の為、初めて評価を実施した。結果をしっかりと業務改善につなげていけるよう、スタッフと共有し、対策を考える。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		職員ミーティングや、日常的なやり取りの中で、改善対策が出されている。研修や委員会の中で話し合わせ、マニュアルの見直し等が実施されている。	日々の業務内容について、改めて共有する機会や話し合いの機会を設けられるようにする。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5		今後検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		県や市主催の研修、外部団体主催の研修、資格取得研修等、希望を募り参加している。	スタッフのスキルアップのため、積極的に外部研修を活用する。
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		令和6年4月に支援プログラムを作成した。HP立上げ後に公開している。	保護者の方に周知を徹底する。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		子どもと保護者のニーズや課題を客観的に捉えられるよう、面接時は、心理師が子どもの遊びを担当し、計画作成時には相談しアセスメントしている。	子どもの成長発達、アセスメント研修等に参加していく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		個別支援会議には、できるだけ全員のスタッフが参加できるよう時間を確保している。いろいろな意見が出しやすいような雰囲気心をかけている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		朝ミーティングで、プログラム内容を検討する際には、計画を見て目標を確認しながら、話し合いを行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	1	保護者の希望により田中ビネー知能検査、新版K式発達検査、KIDSを実施可能。外部機関で実施された検査結果でも発達状況を把握し個別支援計画の作成に活かしている。また、日々の療育での各自スタッフの観察によりアセスメントし、記録に残したり報告するなど、共有をしている。	現在、認知発達については太田ステージを活用している。評価表を作成して、保護者との共有できアセスメントツールとして活用予定。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」に沿った支援内容を踏まえて個別支援計画に反映、設定している。	

支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		毎朝のミーティングにて全員で立案している。個別支援計画の内容を確認しながら、日々の記録なども見て、子どもの些細な変化などにも対応できるよう、話し合いをして活動内容を決定している。	お子さまに合わせた内容が提供できるよう、スタッフが意見を出しやすい雰囲気作りや正確なアセスメントが出来るスキルの向上に努める。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		同じ数概念を実施する場合でも、ゲーム性のあるものにしたたり、好きなキャラクターを使用したり、おままごなどの道具を利用したりと、工夫している。サーキットやパネルもなるべくいろいろなものが出来るよう工夫している。ただ、子どもの特性によっては積み重ねが必要であったり、変化しない状態で慣れてもらう必要がある場合には、繰り返し行うことがある。	繰り返し実施する場合には、保護者への説明を十分行い、理解を得る必要がある。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		個別活動と小集団を組み合わせて実施している。個別では認知課題や気持ち、ルールの確認などを実施し、小集団では社会性や運動面を中心に実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		毎朝のミーティングで、綿密な打ち合わせを実施している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		支援終了後は、記録の時間等を確保するため、緊急な周知事項のみとしている。基本的には翌朝のミーティングにて報告している。	翌日休みのスタッフは、終了時に申し送りをするなどの工夫を行う。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		療育記録は徹底して実施している。記録を見ながら、療育プログラムを決定している。	より端的で分かりやすい記録を目指したい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		半年に1回、面接を実施している。療育担当スタッフからの情報や、療育での子どもの様子、保護者への声掛け等を実施しながら、見直しの時期を検討している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	2	障害児相談支援事業所の会議参加、関係機関との連携会議に児童発達支援管理責任者が参加している。	必要時に適切な人員が参加できるようにする。会議結果が他スタッフと共有できるよう工夫する。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		保育園訪問や連携会議、当事業所訪問の受け入れなど、各関係機関との連携を実施している。個人情報の取り扱いには十分注意し、連携時には保護者の同意を得て実施している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		各家庭の生活スタイルに合わせた事業所や、保護者の目的に合わせた事業所の紹介を実施している。保護者の了解を得て各関係機関へ情報共有を実施している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	4	本年度の卒園生で、支援級や小学校との連携を希望する方がいなかったため、実施していない。しかし、各市で実施している支援プランや経過報告書の作成の準備は出来ている。また保育園との連携により、間接的に小学校へ支援内容を共有していただく等を実施している。	小学校との連携について、保護者への周知を徹底する。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	2	3	児童発達支援センターの実施している研修や連絡会に積極的に参加している。スーパーバイズを受けるための段取り等が不明なため、お願いしていない。	スーパーバイズをお願いできるのであれば、是非活用したい。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		5	実施していない。 近隣幼稚園や保育園、関係機関の見学（営業時間外）の希望については、受け入れている。	近隣保育園、幼稚園との関係構築から始めていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		療育終了時には必ずフィードバックの時間を設けている。必要時には面接を設定している。お話する時間を設けられなかった場合は、追ってLINEにてフィードバックするようにしている。	

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		5	実施していない。	スタッフがきちんとしたペアレント・トレーニングが提供できるよう、研修を計画している。また、保護者に提供する研修についても検討中である。
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に説明している。不明な点はその都度、説明をするようにしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		初回面接時に、今までの経過から現在の生活、心配していること、子どもと保護者の意向を聴取している。それらを踏まえ、アセスメントし、目標設定をしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		個別支援計画の説明をする面接を設けている。その際、保護者の意向を再確認し同意を得ている。	保護者が分かりやすいよう、丁寧な説明を心がける。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		半年に1回の面接は必ず実施している。それ以外にも、必要時に面談の時間を設けている。面談という形ではないが、全スタッフが困っていることや心配事がないか等の声掛けを心掛けている。	出来るだけ良いタイミングで面談が出来るよう声掛けを継続していく。 心配事等への助言が適切に出来るよう、スタッフのスキルの向上を図る。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		5	現在実施していない。	保護者が抱える不安や心配事の共有や、対応の工夫などを知る目的で、必要性を感じている。保護者会が実施できるよう検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	1	相談や申し入れがあった場合、即時スタッフ内で共有し、LINEや電話、面談にて迅速かつ適切に対応するよう努めている。苦情受付・解決担当者は重要事項説明書に記載し契約時に説明している。	引き続き迅速な対応に努める。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		HP、Instagram、発達ナビにて活動内容やお知らせを発信している。記事がアップされた際は、LINEにて保護者へお知らせし、確認を促している。新規利用時に、各URLをLINEにてお知らせしている。	年間通して確認していただきたい物（計画やマニュアル）については、常に見ていただけるようHPの改善を計画している。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報に記載された書類などは鍵付きキャビネットにて保管し、掲示物や配布物の中に個人情報が含まれないよう配慮している。	今後も引き続き取り扱いに十分注意していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		見てわかりやすい視覚補助的教材（写真・絵カード、ホワイトボード、パネル）を使うなど伝達方法を工夫している。また、不必要な情報で混乱させないように、訓練室内に装飾や掲示はしていない。	保護者やこどもの特性に応じ、必要な工夫を新たに導入するなど、今後も継続していく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5	地域の方が参加できる行事の実施はしていない。 高校生、大学生の清掃・おもちゃ作りボランティア受け入れは行っている。	今後、検討していく。
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		安全計画の中でマニュアルに基づいた研修や訓練を実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		BCPIに沿った研修・訓練を実施している。避難手順や経路確認、連絡訓練、西部公民館への避難訓練、避難グッズ確認を実施している。	実際の子どもの避難については、安全確保や保護者の同意などの課題を検討して行く必要がある。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		初回面接時に必ず聞き漏らしが無いよう必須項目として確認している。また、緊急時に対応できるよう、救急対応や連絡体制について定期的に確認している。	今後も引き続き、実施していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	医師の指示書が処方されている食物アレルギーのある子どもは通所していない。しかし、アレルギーについての勉強、エピペン対応については研修を実施している。	今後も引き続き研修を行う。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全管理に必要な研修や訓練などを実施している。	前年度の反省を踏まえ、毎年、内容を更新していく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		安全計画に基づき、感染症や怪我などについて注意喚起や事業所の取り組みについてHPやInstagramにアップし、LINEにて周知に努めています。	保護者への周知が不足していたため、よりわかりやすい周知方法を検討する。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		事象後、即座に所内で共有し対応について話し合いを行っている。 予防対策として、リスクアセスメント、環境整備、安全教育、意識向上対策を実施している。	常に全スタッフがヒヤリハット事例を起こさないよう、より一層の意識向上対策を実施する。朝ミーティングでヒヤリハット防止のポイントを確認する。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		身体拘束適正化研修、虐待防止研修などを定期的を実施し、スタッフの意識スキルの向上を図っている。 虐待対策委員会では事例検討を実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		身体拘束適正化研修、虐待防止研修などを定期的を実施し、スタッフの意識スキルの向上を図っている。	今まで身体拘束が必要なケースが無かったが、やむを得ない場合が発生しそうな場合は、保護者と本人と十分に話し合い、スタッフ間の共通理解も得た上で、個別支援計画に記載させていただく。また、行われた場合の市への報告等についても確認しておく。